

# REVE





イタリアの人々は会話にユーモアと笑顔を絶やすことなく、どんな人でも人生と食事の楽しみ方を心得ている…。旅行者にとっては、行きずりのレストランでの一皿がイタリア料理のすべてであるように、わずかの体験でその国のあらしを得ようとするには、この紋切り型は便利ではある。

たとえば、百を超える運河と歴史的な建造物で知られる「水の都」ベニス。パリの新しい花嫁のハネムーンの旅行先として最も多く人気を集め、訪れる人々の魂をくぎづけにする。「アドリア海の真珠」という美しい形容は、ベニスの魅力を伝えるのにふさわしい。だが多くの観光地のつねであるように、オフ・シーズンにはそうした紋切り型に少しだけ裏切られ、その代わりに少しだけ得をする。私たちは、あの迷路のように入り組んだ路地の奥の、普段の喧騒と明るさに紛れていた不思議な空間に、いとも簡単に迷い込むことができるのだ。運がよければ、多くの芸術家を生み、職人と芸術家が未分化だった頃から引き継がれてきた「イタリアの技」の胆魄を、少しは伺うことができるかもしれない。

# ITALIAN WORKS

# ITALIAN WORKS

## ARTIST

# GIORGIO VIGNA



レーヴ第3号に登場するアーティストは、ヴェローナ出身のジョルジョ・ヴィーニャ。多彩なクリエイティブ活動を続けているアーティストだ。イタリアといえば即座にモダンな感覚のものをイメージするが、彼の作品は土や風や水……、限りない自然の営みを連想させる。それにしても、彼の造形と色彩感覚は何に由来するのだろうか。

古典の博物館のようなイタリアという土地が技を磨き、ラテンの血が感覚をたゆみなく刺激するのか。ヴィーニャの作品における青の透明感、緑の深みは、まさに彼の思想に深く根づいているのだ。

# MENU

FEATURES

ITALIAN WORKS

Part 1

## 2. INTRODUCTION ITALIAN WORKS — イタリアの技

[Photo: YOSHINOBU ASARI / 写真: 浅利吉伸]

## 5. ARTIST GIORGIO VIGNA

ジョルジョ・ヴィーニャ — 太古の記憶のかげらたち

[Text: MIHO TAKECHI / 文: 武智美保]

[Art Works: GIORGIO VIGNA / アートワークス: ジョルジョ・ヴィーニャ]

[Photos: CRISTINE TIBERGHEN / 写真: クリスティン・チベルギエン]

[Photo: p.5 MELO BOSCARION / 写真: メロ・ボスカリーノ]

[Photos: p.12 MIHO TAKECHI / 写真: 武智美保]

## 14. SHOP LABORATORIO ARTIGIANO Confeziona

ラボラトリオ・アルティジャーノ・コンフェツィオーナ — 美しい技の工房

[Photo: p.14 YUJI TAKEUCHI / 写真: 竹内裕司]

[Photos: p.15 YOSHINOBU ASARI / 写真: 浅利吉伸]

PRODUCER: KIYO MISAO

EDITOR-IN-CHIEF: YOSHINOBU ASARI

ART DIRECTOR: KIYO MISAO

DESIGN: CHILD at HEART Co., LTD.

PUBLISHER: SHINJI KATAYAMA

SPECIAL THANKS TO: MIHO PROJECT

COVER AND BACK COVER

Photographer: CRISTINE TIBERGHEN

Art Works: GIORGIO VIGNA

REVE・レーヴ ISSUE 3 APRIL 1991

1991年4月10日発行・第2巻 第1号

発行人: 片山進司

発行所: ゴンドラ商事株式会社・レーヴ編集室

〒111 東京都台東区浅草橋4-12-1

Tel.(03)3864-9804 Fax.(03)3862-4814

企画・編集: ジャスト・エンタープライズ [JUST ENTERPRISE Co., LTD.]

制作: 株式会社シンコム

〒107 東京都港区北青山3-5-11 高桑ビル411

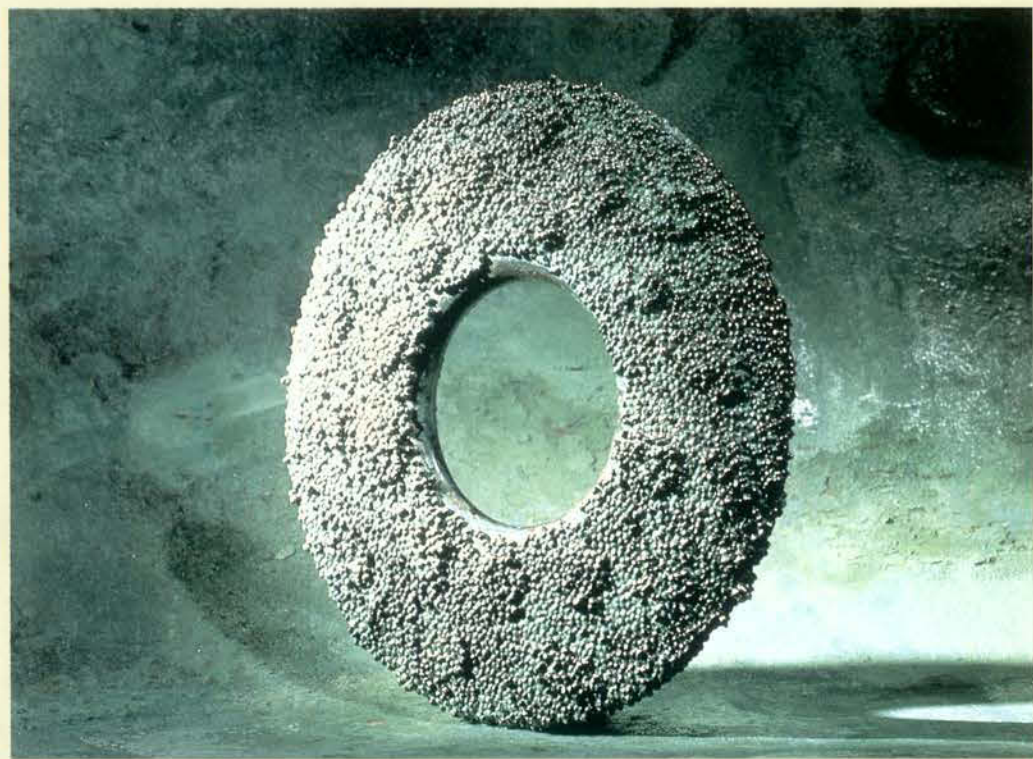
Tel.(03)3404-9718 Fax.(03)3404-9719

印刷所: 日本写真印刷株式会社

※本誌掲載の写真および記事の無断掲載を禁じます。

Cover作品 マグネット付きのピン(金メッキと錆びた銅+らせん状のガラス)

Back Cover作品 マグネット付きのピン(銀メッキと赤銅)



錆びた鋼のブレスレット



赤銅+銀のブレスレット



ガラスの角付きの銀のブレスレット

「National Geographic」がほくの大親友というジョルジオ・ヴィーニャ。土俗的芸術からインスピレーションがわいてくるという。張り子に形づくられた身につけるオブジェたちは、音さえも湧きおこすのだ。

—海辺の波の音が、砂がふれ合う音がどこからともなく聞こえてくる。私は耳をすましている。

澄んだ空気の中でしか聞こえない音たちはヴィーニャの落とし子である。超モダンなデザインではないのにモダンで、ファッショニ性を感じそうてファッションではない。そう、彼の作品はシーンの流れの中の一コマではなく、土の中から芽を出し枝を伸ばし、幹を作るための根をしっかりと持っているのだ。

—それは確かに地球に根ざしている。時には水辺の近くに、時には道端に、時には太陽に一番近いところに棲息する。

ヴィーニャは現在、彫刻、ジュエリー、デザイナーといわれているが、もともとはマルチ・アーティストだった。ヴェローナ出身の彼は一九七二年、一七歳の時からコスチューム・デザイナー、舞台美術監督、俳優としてその活動をはじめた。イタリアのポローニャにある総合芸術大学「ダムスアカデミー」に入学したものの、学ぶべき価値をみとめず、除籍。様々なところで独学を始め、自らの体験の道を選んだ。キャンパスにむかつて表現するのではなく、日常の中に溶け込むものを望み求め続ける旅に出たのだ。

ヴィーニャは家具のデザイン、布、そして大理石模様の絵付けの独特な製法の発明等の様ざまな試みを経て、一九八五年からジュエリーのデザインを始めるようになった。彼にとってアクセサリーは、服に従属するものではなく、動くオブジェそのものだった。それは服の代わりに空気や光りや風や水や、それをとりまくシーンを欲した。そしてそれは、主役に代ってすぐにも語り始めるシンボルにもなりうるのだ。

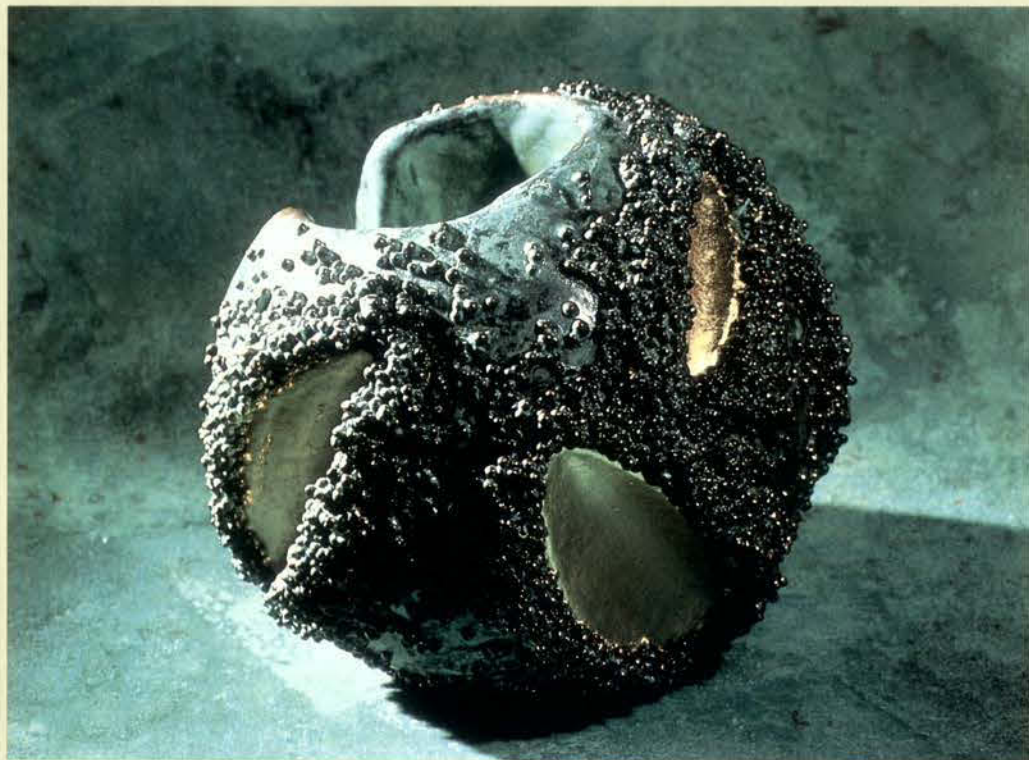
イギリスの鬼才ピーター・グリーナウェイ監督のカンヌ映画祭芸術貢献賞受賞作品「The Belly of an Architect」（建築家の腹）の中のアクセサリー・デザインを手がけたことがある。

「映画の仕事は、確かに面白かった。コスチューム・デザイナーが僕の作品を偶然に見つけ、それを見せられたピーターも、特別に印象づけられた。僕の作品は変わっていたはずだからね。

彼はヌードの女性に僕の作品をつけさせた。そのジュエリーは、重要なシンボルの役目をしたってわけさ。こういうハーモニーのあるクリエイティブな行為はとっても好きだし、満足した。ピーターは僕の作品を本当に理解してくれていると確信したよ」

その後、イタリア・ヴオーグ他、沢山のファッション誌に、服のかわりにヴィーニャの作品を身にまとった一流モデルたちがガラスピアを飾るようになった。

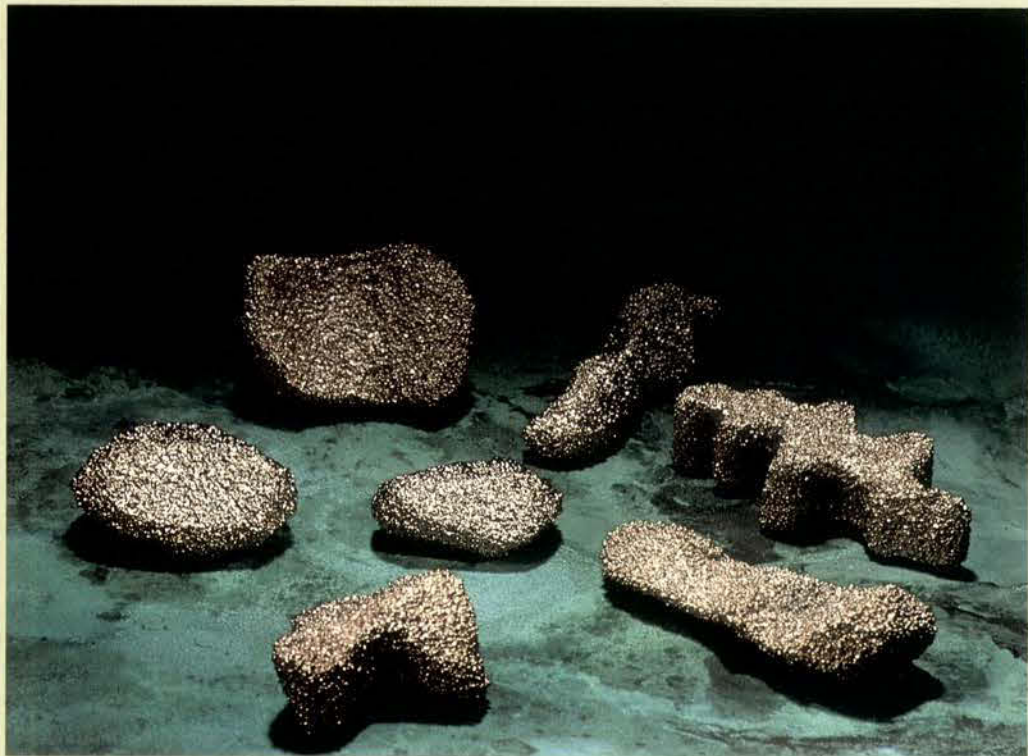
「ハーモニー」、これも彼の重要なテーマ



赤銅+錆びた銀のブレスレット



石の容器と錆びた鋼のマグネット



金メッキの彫刻  
"SABBIE MOBILE (動く砂)"



マーブル模様彫刻  
(錆びた鋼+金箔)

デアはシンプルな条件から生まれてきているのだ。

ヴィーニャの「石」は最近、海辺へも足を伸ばした。海水に浸され、海草に侵食され、また新しい仲間を生みだしている。この石はまさに、ヴィーニャのクリエイティブな仕事の総決算なのかもしれない。

「いつも自由で開放的な精神が新しいものを生みだす。何かに類似しているようなことでも、自分の中から湧き出てきたことなら、それにはオリジナリティーがあるし、いつかは自分の物になるっていうことさ。日本は洋服の歴史が浅いのにはすばらしいデザイナーたちがいる。今はほら、トップデザイナーばかりになってしまっているだろう」

彼はファッションに興味はないし、従うつもりもないけれど、自分の仕事はファッションの近くに位置していると自覚している。そして、彼がイッセイ・ミヤケを意識するのは、彼のファッションデザイナーの立場ではなく、クリエイターとしての立場に共鳴していることである。もちろん「近い将来、イッセイ・ミヤケと仕事ができれば……」ともらずように、彼は尊敬するクリエイターの一人でもあるのだという。

ヴィーニャは、一九九〇年十一月〜十二月に「散歩する石」の三年目の個展をポロニヤで開いた。幼い頃の私たちの記憶のかけらを呼び起こしてくれるヴィーニャは、今後も意欲的にテーマを発表し作品を作っていくだろうが、次のテーマが今から期待される。

だ。好奇心の強いキラキラした大きな目で、彼はいつも求めている。彼は今まで誰からも影響を受けたことはないが、自然からは沢山のことを学んだ。そして故郷ヴェローナでは、毎年夏に催されている野外オペラからは多大な触発を受けたそうだ。自然の月あかりとろうそくの灯の中、アレーナ（野外劇場）でおこなわれるオペラは、まさに人間の力と自然のハーモニーで構成されている。このステージがどうやらヴィーニャの原点らしい。

「僕のプロセスの源となるのはただ直感のみ。新しいものを生み出す時には、僕を支配しようとするエネルギーに身を委ね、感じたままにそこへ入り込んでいくんだ」

自然にさからうことなく、逆に神なる自然の力をかりて、ヴィーニャのモノづくりはほとんどんふくれあがっていく。道端に捨てられた一見価値のなさそうなものの静寂さに「豊かさ」を感じるという。

ヴィーニャは一昨年から石をモチーフにして「Sassi a Spasso」(散歩する石)というテーマの作品づくりをしている。

「ヴィーニャの「石」は一度触れるとひょいっと軽くなる。フワッと舞ってしまいそうで、地面を弾むよう……。そしてその石はやがて散歩に出てしまう。オブジェになって壁や鉄棒につき、マグネットでプローチになる。二つに割れて宝物入れに。腕に巻きつき、いくつが群れをなしてまた、新しいオブジェになってしまう。」

奇想天外そうに見受けられるこうしたアイ

WANDERING SAND STONE CLUSTERS

NOW APPEAR IN THE STONY STORY

SHIMMERING OPENINGS NICHED BY TIME

ASTRAL CLESIDRA MEMORY

GOLDEN DROPS OF FLOWING MERCURY

UPHELD IN RADIANT SUSPENSION

WATER GEMSBLOWN IN TRANSPARENCY

WOODEN STONESPLYING ALONG THE PETRIFIED

ADVENTURE WHICH TURNS TREE TO STONE

GLASS LENSESTHE EYES OF THE EARTH

WATCH IN STUPEFACTION THE MINERAL CROWD

OF STONE SPIRITS DREAMT OF HERE AND THERE

SEA CRACKS ON COPPER STONES

STILL BREATHING AIRY PEBBLES

BURIED IN THE HOLES OF THE EARTH

METALLIC MUSIC AND STRANGE SHINING MINERAL

FROM A FAR-OUT ISLAND

INTERWOVEN ENDS OF ANCIENT LEGENDS

BALLS OF MERCURY AND SUNDEW

CLOTTED WATER IN DROPS OF GLASS

SOLAR NUGGETS SURFACING FROM SEAWEED

STONE OPENINGS FORGING PASSAGES

ACROBATSHANGING ALONG THE THREAD OF TIME

WAVER AND PRETEND TO REALLY EXIST

晴く秋の子をまよふいそよ  
石の物語がきこえる  
嵐の吹上りSIRIUSの光輝まで  
まらふりと流り降り雲中に舞い散らして  
流れてる氷壁の硝子粒  
深奥に輝く水の水の空想  
来る石は流れる雲霧にいそよ  
あつたるを石たち  
地球の目の世界SIRIUSの光輝  
石は木の心があつたことごと  
雲霧の光  
しーと見るとこころ

雲の石の北で流れるうしろ音をたてて流れる  
地球の穴に落ちた水も  
小石の及ぶ水は流れるしつぱいながら  
雲一層がつの空気の風船を  
雲を流れる雲たまりの雲  
いじく人の眼珠の縁りをすそひくは  
水溜り水溜りのしずくの粒  
がらすのしずくの中の水のがたまり  
活葉の中から顔を出した水溜りの水溜り  
言葉をつく石のオープニング  
時間が止まる雲をよりする  
ゆらゆら降りて本気で空気に存在するよきに



# GIORGIO VIGNA

## PROFILE

Born Verona 1st August, 1955. Studied Art in Verona, Milan and Bologna.

**1972-1979**: Experience in theatre as costume designer, director, actor and scene designer.

**1974-1975**: Collaborates with editing house of an American limited art edition "Plain Paper Press", experimenting and learning the ancient techniques of marbling.

**1978-1986**: Transferred to Rome and meets the architects of STUDIO E. Studied in depth and developed the technique of marbling the in area of furnishings, in design and in the artistic research applied to different materials and functions, paper, objects in ceramics and porcelain, tiling, panels in wood and perspex, textiles, realisation of designs for wallpaper industries. Perfected a particular marbling technique on porcelain, ceramic, glass and their derivatives.

**1979-1991**: Amongst some of the works realised in this period paper, textiles, wood, glass for the showroom of HEDI MARTINELLI in Rome; exclusive designs for panels in polycarbonate fibres to equip the Eurucine 1986 of MERLONARISTON, Milan; particular papers for the shop-windows of 1987 and 1988 of VAN CLEEF & ARPELS in Paris, handmade wallpaper for SIORI-collection Houston; false marble floors to equip in the showroom of CASSINA, Milan; objects in porcelain for VILLA D'ESTE, Como; dressed shop-window display for LORENZ, Milan. Created and realised for BLUMARINE some jewels for the fashion show "Spring-Summer 1990". At the same time was occupied in the research & in the creation of jewel sculpture for body decoration, bringing back in this also a family tradition. Achieves to make jewels for operas, films and television programs. 1980: Meets ENRICO JOB; creates and carries out some textiles for "OTHELLO" at the 43rd MAGGIO MUSICALE FIORENTINO. 1983-1988: MEETS PIERLUIGI PIZZI: achieves for his scenographies particular marbled paper and edits the creation of jewels for his shows in the most important opera houses of Europe. 1986: Intensive work in the engraving field with "LABORATORIO DI RICERCA DELLA CALCOGRAPHIA NAZIONALE". Actually lives and works between Rome, Milan and Verona.

**[Dramas (Opera, Movie, TV)] 1980: "OTHELLO" by G. Verdi.** Realisation of treated fabrics using a particular technique of marblification. 43rd MAGGIO MUSICALE FIORENTINO, Florence.

**1983: "LES INDES GALANTES" by Jean-Philippe Rameau.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies. THEATRE MUSICAL DE PARIS-CHATELET, Paris. TEATRO LA FENICE, Venice.

**1983: "HIPPOLYTE ET ARIGLE" by J.P. Rameau.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies. FESTIVAL D'AIX EN PROVENCE. OPERA DEL LYON. (1984) Lyon. OPERA COMIQUE Paris. OPERA DI LOSANNA (1986). TEATRO M. R. VALLI (1987), R. Emilia.

**1983: "MOSE IN EGITTO" by G. Rossini.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies. ROSSINI OPERA FESTIVAL, Pesaro.

**1984: "SALOME" by R. Strauss O. Wilde.** Idealisation and realisation of armour jewellery. TEATRO M. "R.VALLI", R. Emilia. TEATRO LA FENICE (1988), Venice.

**1984: "I CAPULETI E I MONTECCHI" by V. Bellini.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies. THE ROYAL OPERA HOUSE, London. TEATRO ALLA SCALA (1987), Milan.

**1984: "JOHANNES PASSION" of Johann S. Bach.** Realisation of marbled paper for scenographies. TEATRO LA FENICE Venice. THEATRE CHAMPELYSEES, (1985) Paris.

**1985: "RINALDO" by G.F. Haendel.** Realisation of marbled paper for scenographies. TEATRO M. "R. VALLI", R. Emilia. OPERA COMIQUE, Paris.

**1985: "DON CARLO" by G. Verdi.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies, idealisation and realisation of jewellery. 48TH MAGGIO MUSICALE FIORENTINO Florence.

**1986: "BIANCA E FALLIERO" by G. Rossini.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies. ROSSINI OPERA FESTIVAL, Pesaro.

**1986: "QUESTA E' L'ARENA, QUI NATA MARIA CALLAS"** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies.

**1987: "AIDA" by G. Verdi.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies, idealisation of jewellery. GRAND OPERA HOUSTON, Houston.

**1986: "IL VENTRE DELL' ARCHITETTO" (The Stomach of the Architect) film by Peter Greenaway.** Realisation of stage jewellery.

**1987: "IMMAGINA" Program television of Raiuno; Realisation of stage jewellery.**

**1988: "MIRRA" by V. Alfieri.** Realisation of marbled paper for the elements of scenographies. Direction by Luca Ronconi. TEATRO STABILE, Turin.

**1990: "L'UOMO DIFFICILE" (Difficult man) Direction by Luca Ronconi. TEATRO STABILE, Turin.**

**[Collective Exhibitions] 1985: GALLERIA STUDIO E, Rome. GALLERIA D'ARTE consorziale Latina.**

**1986: THE GRIMSBY PUBLIC ART GALLERY, Ontario. THE CHATHAM CULTURAL CENTRE, Ontario. GLENHYRST ART GALLERY OF BRANT, Ontario. ART GALLERY OF ALGOMA, Ontario. ISTITUTO NAZIONALE PER LA GRAFICA, Roma. GALLERIA STUDIO E, Rome.**

**1987: EMPORIUM, Florence.**

**1988: 5a BIENNIE EUROPEA DELLA GRAFICA DI HEIDELBERG" (5th Biennial European Graphics of Heidelberg) Heidelberg, Madrid, Athens, Budapest.**

**1989: "CONTEMPORARY" MODIT, Milano. "BLUMARINE" Jewelry for the collection Spring Summer 1990.**

**1990: "BLUMARINE" "ALBERTA FERRETTI" Jewelry for the collections Autumn/Winter 90/1 Spring/Summer 1991. Presentation of the collection "UKON" by KOJI TATSUNO. Jewelry for the Collection of "ALBERTO BIAHI" Spring/Summer 1991 "SCULTURA PER IL NEGOZIO DI "BLUMARINE" (Sculpture for the shop of BLUMARINE)**

**[Personal Exhibitions] 1988: "SASSI A SPASSO" (Hanging Stepping Stones) Cartabolo, Milan. "SASSI A SPASSO" (Hanging Stepping Stones) II Emporium, Florence. 1990: "SASSI A SPASSO III" (Hanging Stepping Stones) 3 Fatto and Arte, Bologna. 1990: Presentation of Jewelry at Cascina Stal Vitale (Contemporary Art) Ornate (VA)**

1955年8月1日ヴェローナに生れる。ヴェローナ、ミラノ、ボローニャにてアートの勉強。

1972年～1979年：コスチュームデザイナー、美術舞台監督、俳優として活躍。

1974年～1975年：アメリカの美術出版社「Plain Paper Press」との協力で仕事。古い製法による模様付け（マーブル模様）を研究。

1978年～1986年：ローマへ移住。「Studio E」の建築家等と出会い、マーブル模様の技術をさらに発展させて家具の分野にも進出する。また、様々なマテリアル=紙・セラミック・陶器・板バネル・布・工業紙等での応用で特別な手法を開発、特許を取得。

1979年～1991年：「HEDI MARTINELLI」(ROME)のショールームのために紙・布・木・ガラスを使用した作品を製作(1985年)。「MERLONARISTON EVRODCING」(MILANO)のために幾何デザインとしてのポリカーボンのパネルを製作。彫刻の分野にも進出、国際銅版彫刻サークル工房にて仕事(1986年)。「VAN CLEEF & ARPELS」(PARIS)のウィンドー用の特別紙を製作。手製壁紙を「SIORI Collection」(Houston)のために製作(1987年～88年)。装身具としてのアクセサリーを、家業の伝統を継ぐ形で宝石彫刻の開発、製作をはじめ。オペラ、映画、TV劇のためにアクセサリーを製作。1980年にEnrico Jobと出会い、第43回Maggio Musicale Fiorentinoでの「オセロ」の布のデザインを任される。Piepiagi Pizziと出会い、マーブル紙を美術の為に製作(1983～88年)。さらにアクセサリーを舞台やヨーロッパのオペラハウスでの上演のために製作。現在はローマ、ミラノ、ヴェローナに住み、活躍中。

**[制作関係 (オペラ、映画、TV)] 1980年: "OTELLO" 作=G. Verdi** 特別な手法によるマーブル模様の布の製作 43rd Maggio Musicale Fiorentino 於フィレンツェ

**1983年: "LES INDES GALANTES" 作=Jean-Philippe Rameau** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 Teatro Musical De Paris-Chatelet 於パリ Teatro La Fenice 於ベニス

**1983年: "HIPPOLYTE ET ARICIE" 作=J.P.Rameau** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 Festival D'Arx En Provence, Opera De Lyon (1984年) 於リオン Opera Comique 於パリ Opera Di Losanna (1986年) Teatro M. "R.Valli" (1987年) 於R.エミリア

**1983年: "MOSE IN EGITTO" 作=G.Rossini** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 Rossini Opera Festival 於ペサロ

**1984年: "SALOME" 作=R.Strauss-O.Wild** アクセサリー、宝石、武器のデザイン製作 Teatro M. "R.Valli" 於R.エミリア Teatro La Fenice (1988年) 於ベニス

**1984年: "I CAPULETI E I MONTECCHI" 作=V.Bellini** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 The Royal Opera House 於ロンドン Teatro Alla Scala (1987年) 於ミラノ

**1984年: "JOHANNES PASSION" 作=Johann S.Bach** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 Teatro La Fenice 於ベニス Theatre Champs-Elysees 於パリ

**1985年: "RINALDO" 作=G.F.Haendel** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 Teatro M. "R.Valli" 於R.エミリア Opera Comique 於パリ

**1985年: "DON CALDO" 作=G.Vendi** 舞台上のマーブル模様の紙の製作、小道具のデザイン製作、美術、アクセサリーのデザイン製作 48th Maggio Musicale Fiorentino 於フィレンツェ

**1986年: "BIANCA E FALLIERO" 作=G.Rossini** 舞台上のマーブル模様の紙の製作 Rossini Opera Festival 於ペサロ

**1986年: "QUESTA E' L'ARENA, QUI NATA MARIA CALLAS" (マリア・カラスが生まれたアリーナ)** 舞台上のマーブル模様の紙製作

**1987年: "AIDA" 作=G.Vendi** 舞台上のマーブル模様の紙の製作、および小道具、美術、アクセサリーのデザイン製作 Grand Opera Houston 於ハウストン

**1986年: "IL VENTRE DELL' ARCHITETTO" (建築家の腹) Peter Greenawayの映画** アクセサリーのデザイン製作

**1987年: "IMMAGINA" テレビ放送局RAIDNOのプログラム・アクセサリーのデザイン製作**

**1988年: "MIRA" V. Alfieri** 舞台装飾用のマーブル模様の製作 監督=Luca Ronconi 於Teatro Stabile, Turin

**1990年: "L' UOMO DIFFICILE" (気むずかしい男) 監督=Luca Ronconi 於Teatro Stabile, Turin**

**[主な展覧会] 1985年: Galleria Studio E 於ローマ Galleria D'Arte Consorziale 於ラティーナ**

**1986年: The Grimby Public Art Gallery 於オンタリオ The Chatham Cultural Centre 於オンタリオ, Glenhyrst Art Gallery of Brant 於オンタリオ, Art Gallery of Algoma 於オンタリオ Istituto Nazionale Per La Grafica 於ローマ Galleria Studio E 於ローマ**

**1987年: Emporium 於フィレンツェ**

**1988年: 第5回グラフィック・ビエンナーレ 1987年～89年 ハイデルブルグ (独)、マドリッド (スペイン)、アテネ (ギリシャ)、ブダペスト (ハンガリー)**

**1989年: "CONTEMPORARY" MODIT 於ミラノ, "BLUMARINE" 1990年春夏コレクション**

**1990年: "BLUMARINE" "ALBERTA FERRETTI" 1990/1991年秋冬コレクション**

**タツノコージによるコレクション "UKON" "ALBERTO BIAHI" 1991年春夏宝石コレクション "BLUMARINE" 用彫刻**

**[制作] 1988年: "SASSI A SPASSO" (石の散歩) Cartabolo 於ミラノ "SASSI A SPASSO" (石の散歩II) Emporium 於フィレンツェ**

**1990年: "SASSI A SPASSO" (石の散歩III) Fatto and Arte 於ボローニャ**

**1990年: Cascina Stal Vitale (現代アート) にて宝石コレクション 於Ornate (VA)**

ジョルジョ・ヴィーニャに関するお問い合わせ先は下記の通りです。  
〒107 東京都港区赤坂8-4-3 エルマノス赤坂6F B  
N・S・N株式会社内「ミホ・プロジェクト」  
Tel. (03) 3404・7341 Fax. (03) 3404・7595

# GIORGIO VIGNA

Giorgio Vigna is an artist who says that National Geographic is his best friend, and that he gains his inspiration from folk art. His pieces, shaped in papier mâché and worn on the body, are even capable of making sounds. One seems to hear the sound of waves at the beach, the sound of moving sand. I am listening intently. Although these sounds, only heard when the air is clear, are not Vigna's bastard ultramodern design, and although they give one a feeling of modernism and fashion, they are not the latter. Indeed, his work is not simply one frame from a flow of scenes, rather, it sprouts up out of the ground, takes root, spreads branches, and forms a trunk. It is born of an abundant environment and is rooted in the earth. At times it lives close to water, at times by the side of the road, and at times in the closest position to the sun.

Although Vigna is currently regarded as being a sculptor and jewelry designer, he was originally a multiartist. A native of Verona, he began his artistic career in 1972 at the age of seventeen as a costume designer, art stage director, and actor. He then entered the Damus Academy, an art university in Verona, but soon quit, feeling that there was nothing to be learned there. Studying by himself in a variety of areas, he chose to base his education on his own experience. Rather than direct his expression toward the campus, he chose to depart in search of things steeped in everyday life.

After a period of performing various experiments and discovering new creative techniques in furniture design, cloth, and marble pattern China-painting, he began jewelry design in 1985. His work was not, however, something which was an auxiliary to clothing. It took the form of moving objects, things which needed a surrounding scene with air, light, wind and water. They could become a symbol capable

of speaking for a leading actor.

Vigna did the accessory design for "The Belly of an Architect", the Cannes Film Festival award winner directed by the talented English director, Peter Greenwihc.

"That was really an interesting job. The costume designer of the movie was looking for some special jewelry, and by chance he happened to see my work somewhere. He showed it to Peter, who was, without a doubt, very impressed by it. My work is rather unique, you know. So what happened? He had nude women wear my jewelry. It formed an important symbol in the movie. I really like this kind of harmonization of creative activity; it's very satisfying. I could be certain that Peter truly understands my work."

After that, top models wearing Vigna's works in place of clothing adorned the pages of Italy Vogue and many other fashion magazines.

"Harmony" this is also an important theme in Vigna's work. With a large sparkling eye which brims with curiosity, he is always in search of harmony. While he maintains that through his life no one has influenced him, he has learned much from nature. In addition, he was deeply inspired by outdoor operas performed every summer in his hometown of Verona. That which transpired in the arena under the light of the moon was nothing other than a harmonization of human power and nature. That opera stage was quite likely the beginning point for Vigna.

"Intuition is the sole source of my creativity. When I am in the process of bringing forth something new, I am overcome by a kind of controlling energy which leads me forward based on pure feeling." In no way opposing the flow of nature, Vigna taps it as a divine source of energy causing his creations to surge forth in ever greater volume. He says that "abundance" can be felt, for example, in the tranquility of things thrown away on the side of the road, in the tranquility of things which at first glance appear to have no value.

Since autumn of the year before last, Vigna has been working on "Sassi a Spasso" ("Strolling Rocks") which is based on a rock motif. His rocks, which at first seem an image of weight, suddenly become light when touched. They seem ready to dance about, to bounce off the ground. The rocks then go out for a stroll. They become objects which attach themselves to walls and iron bars, and with magnets to become brooches. They split in two and become jewel boxes, and wrap themselves around arms. They gather in several groups, and form new objects. All of these unexpected and original ideas arise from a single medium.

Recently, the rocks also go strolling by the seashore. They are eroded by saltwater and seaweed, and bring forth new companions. These works may quite possibly be an overall summation of Vigna's creative output until now. It will be very interesting to see what his vitality and creative power will give rise to next.

"A spirit which is free and liberated will always give birth to new things, and even if another person has already done that thing or it resembles something else, as long as it truly arose from within oneself, it has originality and will someday become one's own. Japan does not have a long history of wearing western clothing, yet there are outstanding designers in this country. Their initial work may have seemed to be a copy of someone else's work, but they have now become top designers."

Vigna has no interest in fashion and no intention of following it, yet he is fully aware that his work occupies a position which is close to that of fashion. However, as he demonstrates by raising the example of Issei Miyake, his work is not done as a fashion designer, but as a creator.

Revealing his admiration for the Japanese designer, Miyake, Vigna states: "It would be very nice to work with Issei Miyake in the near future..." His intention is to continue to aggressively create pieces based on a theme, and then hold exhibitions of the new work.

Featuring the rock theme for his third year, Vigna held an exhibition from February through December of last year (1990) in Bologna. We can now look forward to the next theme of this artist, who calls up fragments of memories from our childhood.



"Sassi a Spasso" のテーマで行われたジョルジョ・ヴィーニャのエキジビション (90年11月、イタリア・ボローニャにて)

